

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために… (その127)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 22

海外子女教育振興財団より本の寄贈がありました。書名は、「海外子女文芸作品コンクール 35周年記念作文選集 海外で暮らして～体験したこと、学んだこと～」です。この本にはこの15年ほどの間に入選した世界中の全日制日本人学校や補習授業校の児童生徒の全95作品が収められています。その中に、今から13年前にカラカス日本人学校に在籍していた当時小学部3年生のひ君の作文が掲載されています。当時行われていた「アビラ山植林登山」のことが書かれた素晴らしい作文です。ここに全文を転載します。(この本は図書館にありますので、ぜひほかの日本人学校の児童生徒の作文も読んでいただけたらと思います)

「緑の山にしよう」

ぼくは、1年前に父の仕事で、南アメリカのベネズエラという国にきました。そして、カラカスという大きな町に住んでいます。ぼくの住んでいるアパートは、アビラ山という山のすぐふもとにあります。ふもとといっても、800メートルくらいの高さの場所です。アビラ山は、町のどこからでも見ることができるといわれるシンボルのような山で、カラカスに住む人たちから、とても大切にされている山です。

日本とちがって買い物には、いつも車で行きます。その時、車の中から見えるアビラ山に、木の生えている所と、生えていない所があることに気づきました。ふしぎに思って母にたずねると、山火事ではげ山になってしまったのだということでした。

ぼくのかよっているカラカス日本人学校では、そのはげってしまった所に木を植えて、緑の山にもどすための植林活動を行っています。ぼくもさんかしましたが、とてもたいへんでした。少ない人数なので、たくさんは植えられないけど、この木が大きくなって、また緑のアビラ山にもどればいいなと思い、みんなでがんばりました。

アビラ山は、思ったより急な山でした。ぼくはもっと下の場所に植えると思っていました。「スコップをかき、〇〇くん。」「はい、どうぞ。」「あなの中の石は、どけた方がいいと思うよ。」「そうだね。」いよいよ、なえ木を植える作業が始まりました。木を植えるのは、ものすごくむずかしかったです。「もうちょっとだけ、くぼみをつけたほうがいいんじゃないかな。」「そうかなあ。」友だちとそうだしながら作業をしました。終わった時は、ほっとしました。

木の植え方は、次のとおりです。まず、木の根を守っているビニールをとりまわります。次に、30センチメートルくらいにほってあるあなに、なえを入れます。そして、まわりの土をスコップでよせあつめ、うめてあげればしゅうりょうです。この時、なえのまわりにくぼみをつけます。このくぼみに雨がふった時、水がたまるわけです。これは、アビラ山に木を植える時に、山を守っておられる方が教えてくれたことです。

その山に植えるなえ木は、カラカスに住む人が育てているそうです。自分のお金をだして、アビラ山のためにやっていると聞き、すごい人だと思いました。その人を少しだけ手伝ってよかったです。また、カラカスに住む日本人会の人たちもがんばっています。一年に千本、十年で一万本の植林を目標に、日本人の手で、木のなえを植えています。その活動の中で、カラカス日本人学校の児童生徒もさんかしているのです。

カラカスは、雨が毎日ふる時期とぜんぜんふらない時期が1年に半分くらいずつあります。だから、せっかく植えた木が、かれてしまうこともあります。ぼくたちが植えた日は、帰りに雨がふりました。「木がよろこんでいるかな。」と喜んで、うれしかったです。

ぼくたちの学校は、家から車で30分ほどはなれたアティージョという町にあります。山の上の方にあるので、たまに自然のナマケモノを見ることがあります。本当はしずかな森の中に住んでいる生き物なのに、家がどんどんふえて、山や森の木を切ってしまう、住むところがなくなってしまったからです。見ることができたぼくはうれしいけど、ナマケモノにとってはかわいそうなことだなと思います。

世界中の木が年々へっているのは知っています。山火事だけじゃなくて、人間が木をへらしているのを見たり、聞いたたりすることは、とてもさんねんです。ぼくは、植物ってすごいなと思っています。花がさいて、実がなると、空気をきれいにしてくれます。人間よりずっとすごいのです。

木は、切ってしまうとすぐには大きくなりません。はげ山にするのはかんたんだけど、緑の山にするのはとてもたいへんです。ぼくの植えられた木の数は6本くらいでした。少しだけ役に立てました。うれしかったです。もっともっと多くの人に、木の大切さを知ってほしいと思います。

ぼくは、3年生になりました。また今年、植林活動が行われます。きれいな山にするために、みんなで木を植えます。今年は6本いじょう、木を植えたいと思います。このけいけんを生かして、木や草花、自然の生き物を大切にしていきたいです。

【アビラ山植林登山とは… (左は当時の写真)】沿革史によると、植林登山は1996年～2007年頃まで行われていました。日本人会の方々や保護者も参加する大きな学校行事でした。

